

経済学部「環境ビジネス」公開授業

参加自由・無料

ふくしの森フィールドスタディのご案内

「環境ビジネス」では、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育“ESD”について理解を深めながら、地域に根ざして環境問題を解決する取り組みを学んでいます。そのひとつとして、公開授業「ふくしの森フィールドスタディ」を行います。美浜キャンパス「ふくしの森」を散策して、竹炭づくりを見学して、里山保全とビジネスの両立を考えます。

日時：10月15日（水）2限：11:00～12:30

場所：美浜キャンパス構内バス停集合（集合時間 11 時厳守）

対象：①講義受講生 ②本学学生 ③本学教職員 ④一般（②～④は要事前申込）

申し込み先メールアドレス collabo@ml.n-fukushi.ac.jp

準備：動きやすい服装と運動靴

内容：ふくしの森 散策

案内人 川部竜士さん・大竹健二さん（本学職員）

竹林整備とポーラス炭づくりの見学

美浜町竹林整備事業化協議会（モリビトの会）代表 神野悦夫さん

The forest of Fukushima

ふくしの森

未来へつなげたい、
想いがあります。



あいち森と緑づくり税を活用しました。
（平成25年度里山林再生整備事業）



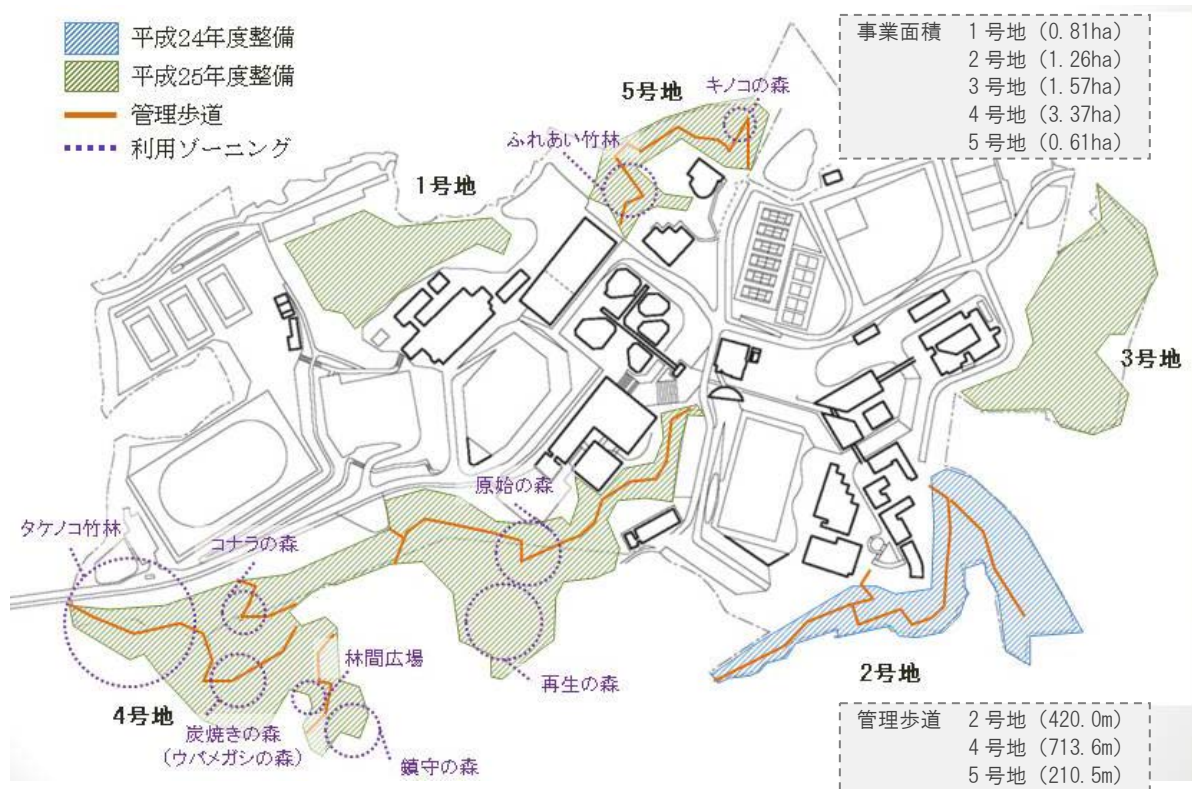
日本福祉大学
美浜キャンパス



日本福祉大学
NIHON FUKUSHI UNIVERSITY

『ふくしの森』は、平成24・25年度あいち森と緑づくり事業「里山林整備」で整備されました。里山林整備は、樹木が覆い茂る里山林を健全な状態へと再生しながらも、簡易防災施設の設置なども整備対象になっていることが特徴として挙げられます。そのため、『ふくしの森』では管理歩道に海拔を示す看板が数か所に設置されています。また、『ふくしの森』は、美浜キャンパス正門付近の4号地を中心にいくつかでゾーンで分割されており、里山の遷移や動植物を観察、幼児教育の実践フィールドとして活用、地域と大学の交流の場とするなど、様々な利活用が期待されます。『ふくしの森』では、マダケ、モウソウチク、ウバメガシ、コナラ、ヤマモモ、スダジイ、イヌマキ、ウヤブツバキなどが観察できます。（裏面につづく）

『ふくしの森』の全体図



『ふくしの森』の環境整備計画イメージ

ゾーンの名称	ゾーンのイメージ・活用方法等
タケノコ竹林	タケノコの収穫を楽しむ竹林
コナラの森	コナラの雑木林の景観が特徴的なエリア
炭焼きの森	ウバメガシの株立ち樹形が残る、かつての薪炭林の景観が特徴的なエリア
林間広場	平坦地形を利用した林間学習の広場（休憩やワークショップ等での利用）
鎮守の森	スタジイなどの常緑広葉樹の大径木がある、森厳な雰囲気のある景観が特徴的なエリア
再生の森	竹を全伐し、現存するイヌマキ、サカキ、ヤブツバキなどの実生を育成して森林に誘導する観察エリア
原始の森	ヤマモモ、コナラなどの大径木が点在し、深い森をイメージさせる景観が特徴的なエリア
ふれあい竹林	竹林管理の体験の場
キノコの森	森林整備で生じた材をほだ木として活用し、キノコの栽培や観察に利用可能
その他	事業地外になるが、湧水湿地が乾燥化して、マツの実生が侵入し始めた裸地がある。また、湧水湿地にはトウカイコモウセンゴケが生育しているほか、付近ではトンボ類やタヌキの足跡もみられる。